

# 1. 平成23年7月～9月期の景気動向

全業種のDI平均値は、前期(4～6月期)の45.4ポイントから5.2ポイント改善し、40.2ポイントとなった。業種では、建設業は前回とは一転して小売業とともに悪化となり、7月豪雨による影響があるものの製造業、卸売業がサービス業とともに改善の結果となった。全体的に需要の停滞を当面の問題として上位にあげている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		61 (54)	61 (77)	11 (41)	9 (34)	46 (75)	73 (75)	48 (48)	45 (58)	29 (47)	19 (29)
採算		92 (62)	69 (77)	22 (48)	31 (44)	27 (50)	36 (50)	52 (56)	59 (46)	14 (38)	15 (29)
資金繰り		62 (46)	61 (54)	16 (20)	19 (27)	18 (25)	27 (25)	40 (37)	42 (42)	5 (30)	5 (20)
業況		69 (39)	59 (69)	24 (46)	34 (42)	46 (57)	50 (43)	48 (43)	52 (50)	14 (42)	20 (24)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		原材料価格の上昇		販売単価の低下		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下		製品(加工)単価の低下		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加	
業種別 コメント		全項目でDI値が大幅に悪化した。前期に比べ官、民ともに受注量は増えてきているが、競争の激化により受注単価は下がっている。来期まで受注量はほぼ横ばいで推移すると思われるが、採算性の悪化からより資金繰りが厳しくなると予想される。		冬場に向けての季節製品が好調のため、DI値は他の業種と比べ回復傾向である。今後は原材料価格の上昇と加工単価の低下が当面の課題となる。企業の海外進出が進み、加工単価での競争は今まで以上に激化するため、技術力の向上と受注先の開拓が急務である。		前期に比べ売上高DI値は2.9ポイント改善し、他全項目改善傾向が見られた。円高による仕入価格低下が見られた業種もあったが、全体的に見ると販売価格の低下傾向、需要の停滞が依然続いており、来期の見通しは足踏み状態が続く見込みである。		中元商戦を迎え回復傾向に期待していたが、天候不順や7月末の豪雨による被害の影響から消費は活発化せず、節電による節約意識からDI値もほぼ横ばい状態で推移した。放射能の影響を懸念し、生鮮食料品に対して産地の不安感が拡大し、一層の消費減少となっている。来期見通しも、このまま推移し厳しい状況が続くと思われる。		GW以降、少しずつ改善傾向にあり、節電志向やクールビズなどの影響により、外食や理美容業などを中心として今期も全般的に改善が見られた。来期見通しでも、このまま推移し年末商戦での新たな需要の掘り起こし、サービスの提供が課題と思われる。	



とくに好調  
(50 DI)

好調  
(25 DI<50)

まあまあ  
(0 DI<25)

不振  
(25 DI<0)

きわめて不振  
(DI< 25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

( )は前回調査時のD・I値